



県都らしい「風格とシンボル性」をそなえた県庁前付近

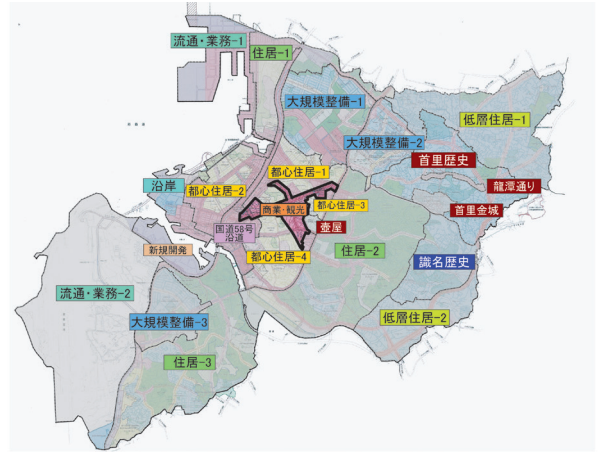
## 6. 商業・観光エリア

### ■エリア区分

商業・観光エリア

＝国際通り及び沖映通り一帯・平和通り界隈など

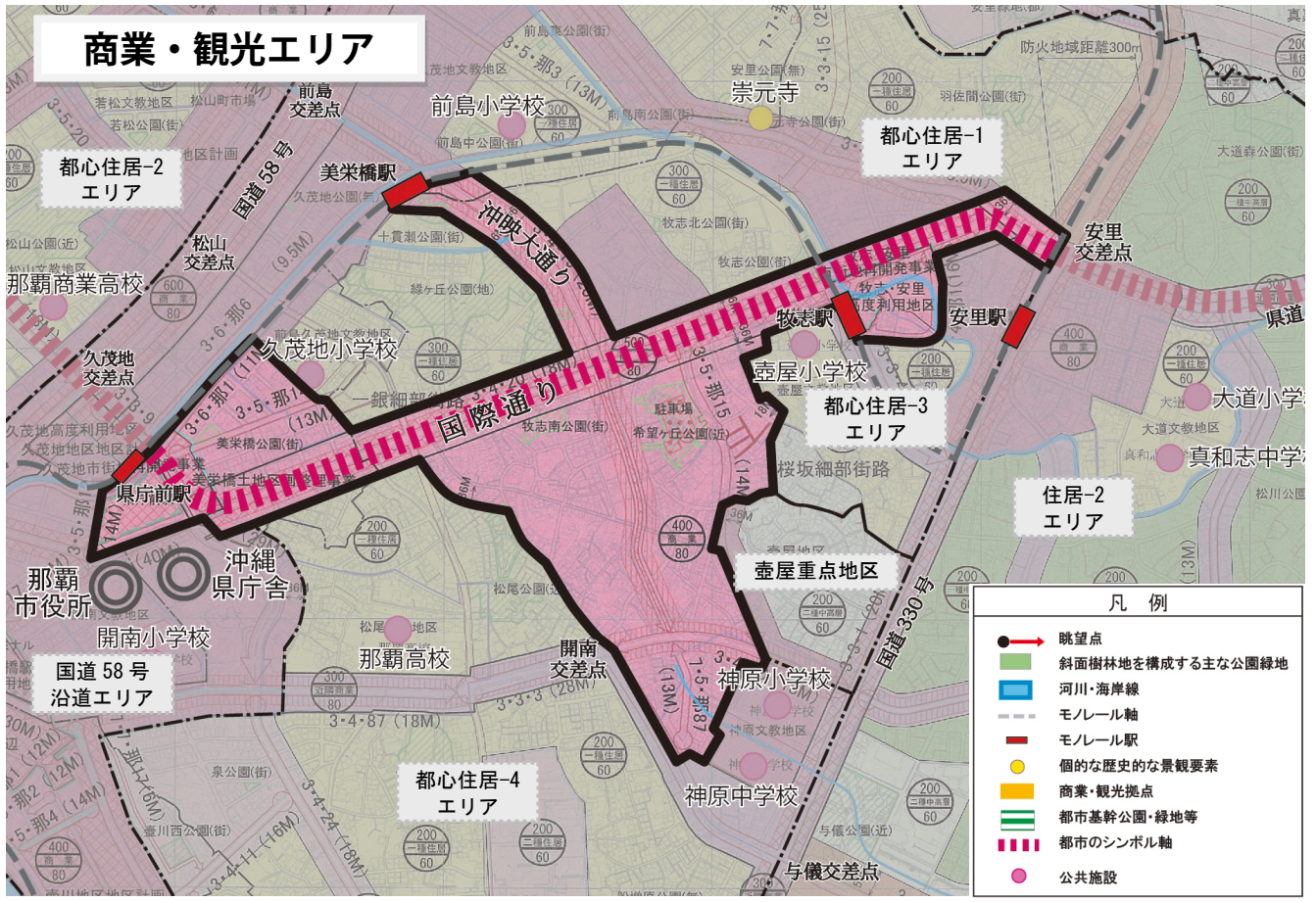
中心市街地にありながら、国際通り、平和通り一帯は観光拠点・商業拠点としての特別な個性を有する景観が展開しています。それらの個性ある景観をひとつのエリアとして区分します。



### ■骨格的景観要素図における位置図







＜景観整備の目標＞

- ・国際的な交易・観光都市として、また、国際通り一帯は、歴史・文化の名にふさわしい亜熱帯の瑞々しい景観形成を目指します。
- ・「マチグラー」景観の保全・育成を目指します。

＜全体方針＞

- ①拠点となる商業地として、街並みの連続性に配慮し、小路（パラダイス通り他）を活用する等、界隈性のある商業空間を形成し、歩いて楽しい街並み景観の形成を図ります。
- ②建物低層部は、商業・業務施設で構成し、賑わいのある景観形成を図ります。
- ③シンボルとなる街路樹の選択や、店先の植栽スペース確保、あるいはプランターの設置等、道路と一体となった空地の緑化や壁面・窓際の緑化の推進により、潤いのある景観の形成を図ります。

＜個別方針＞

- ①国際通りや沖映通り、平和通り等主な商店通りの背面にあたる場所などは、宅地内緑化・生垣、石垣づくりなど、沖縄の個性的な街並みデザインの推進・整備を図ります。併せて、緑ヶ丘公園の景観に配慮します。
- ②商店街通りの交差点部分では、商店の空間と一体的な景観整備に努め、活気・賑わい・休憩など通りにふさわしいコーナー性を意識した意匠の採用やオープンスペースの確保、緑化などにより、魅力ある街角の景観形成を図ります。



賑わう平和通り商店街





街路樹の施された浮島通り  
(壺屋1丁目付近)

国際通りトランジットモール



狭いスペースを活用し緑化された事例

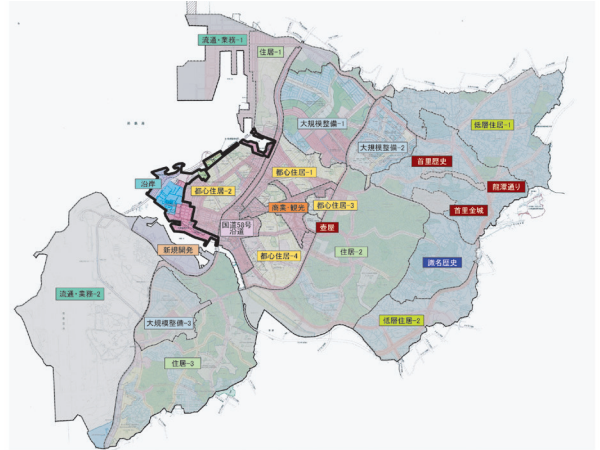
# 7. 沿岸エリア

## ■エリア区分

沿岸エリア

＝泊ふ頭・若狭・辻・西・那覇ふ頭臨港地区一帯

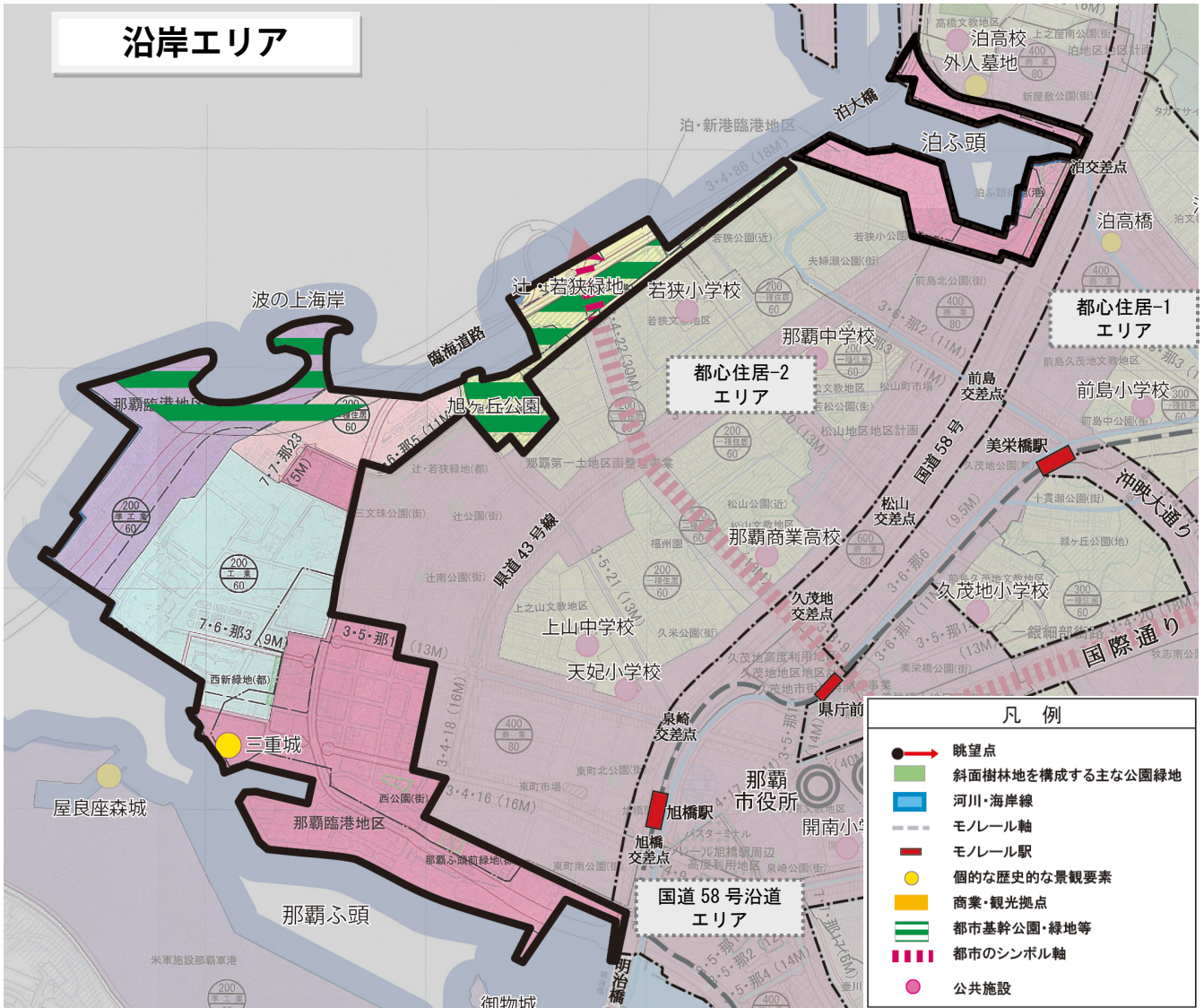
泊ふ頭や若狭、西、辻などは今後リニューアルされていきますが、基盤としては流通業務の景観が展開しています。これらをひとつのエリアとして区分します。



## ■骨格的景観要素図における位置図







＜景観整備の目標＞

- ・亜熱帯の水緑あふれる都市型リゾート景観形成を目指します。

＜全体方針＞

- ①海・空からも見えやすい当沿岸エリアは、それらの視点にも配慮したウォーターフロント景観の形成に努めます。
- ②道も「庭園」と位置づけ、道路と敷地の一体的・連続的な空間構成の形成に努め、花・緑豊かなリゾート景観の形成を図ります。
- ③敷地の大きさを活かし、ブロックごとに連続する美しく修景された沿道建物と街路との一体的な景観形成を図ります。
- ④敷地内は、十分なオープンスペースの確保に努めます。また、緑化をさらに推進し、落ち着きと親しみ・亜熱帯庭園らしさの感じられる景観形成に努めます。

＜個別方針＞

- ・旭ヶ丘公園は隣接する辻・若狭緑地と共に緑豊かな水際線の形成を図ります。また、海辺へアクセスしやすい護岸構造等に配慮します。また、波之上の海崖植物（モンパノキ、クサトベラなど）及び歴史的な空間の保全を図ります。



泊ふ頭旅客ターミナルビル（とまりん）





対馬丸記念館前（若狭1丁目付近）

緑地と一体となったバス停（西3丁目付近）



臨港道路港湾1号線





波の上ビーチの遊歩道



波の上ビーチ



那覇港大型旅客船ターミナルより泊大橋方向を望む